

《めざす児童像『主体的に学ぶ子 共生の心を持つ子 健康な子 郷土に親しむ子』》



しらやま

白山小学校だより No.27

令和2年11月2日

おかえりなさい! コウノトリ「武生」



10月30日(金)、コウノトリの「コウちゃん(武生)」が本校にやってきました。1970年(昭和45年)に越前市白山・坂口地区にくちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が飛来してから50周年を記念し、兵庫県から借り受けた剥製が11月13日(金)まで図書スペースで展示されることになりました。目の前にするコウちゃんは体長約1m。今にも動き出しそうで、独特の美しさには気品が感じられます。太くて長くくちばしが特徴のコウノトリですが、捕獲当時のコウちゃんは下クチバシが10cmほど折れていたためにエサが取りにくく衰弱し、羽の手入れができず羽ジラミまで寄生するようになったといいます。その後兵庫県豊岡市でクチバシの整形手術にも成功し元気を取り戻したコウちゃん。環境についてたくさんのことを学習している本校にとっては、「コウノトリと共に生きる」ことを学ぶ大切な教材となりそうです。今月行われる学校公開の際には、保護者の方にもぜひご覧いただきたいと思えます。なお、12日(木)5校時には、前田利博さん(コウちゃんを愛する会)から当時保護活動に取り組んでいた頃の様子や、環境を守っていくことの大切さについてお話しいただく予定です。

白山・坂口地区に「コウちゃん」飛来

昭和45年12月、白山・坂口地区に1羽のコウノトリが飛来しました。地元の子供達はコウノトリの観察を行い、このコウノトリに「コウちゃん」という名前を付けました。しかし「コウちゃん」は、下クチバシが折れていてうまく餌が捕れないことがわかりました。餌捕りなど、地元住民や子供達による熱心な保護活動が行われましたが、衰弱したため捕獲され豊岡市の保護増殖施設に送られました。「コウちゃん」は豊岡で「武生」と名付けられ、34年間大切に飼育され、1羽の子供と4羽の孫を残しました。(越前市HPより)



「約束のケージ」のジオラマ



当時の写真や新聞記事



コウちゃんの剥製